

Korea File 2020 NO.1 別冊「朝鮮の声」(2020/01/01~03/00)

●朝鮮労働党中央委第7期第5回総会に関する報道(1/1)

全ての党員と人民、人民軍将兵の大きな期待と関心の中で朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会が昨年12月28日から31日まで、党中央委員会本部庁舎で行われた。

偉大な朝鮮労働党の指導に従って社会主義強国建設の新たな勝利を早めていく歴史的転換期に招集された朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会は、前代未聞の峻厳(しゅんげん)な難局を正面突破して国の自主権と最高の利益を最後まで守り、自力富強の旗印高らかにチュチェ革命偉業勝利の活路を開いていくための不滅の大綱を示したことで、わが党の歴史と自主強国建設の歴史に特筆すべき出来事になる。

朝鮮労働党の金正恩委員長が総会を指導した。

総会には、朝鮮労働党中央委員会委員および委員候補と党中央委員会検査委員が参加した。

また、党中央委員会の活動家と省、中央機関の活動家、各道人民委員会委員長、各道農村経営委員会委員長、各市郡党委員長、重要部門と部署、武力機関の活動家がオブザーバーとして参加した。

金正恩委員長が党政治局の委任により会議の運営、進行を務めた。

総会には、次のような議題が上程された。

1. 生じた対内外形勢の下でわれわれの当面の闘争方向について
2. 人事について
3. 党中央委員会のスローガン集を修正、補充することについて
4. 朝鮮労働党創立75周年を盛大に記念することについて

総会では、第1議題が討議された。

金正恩委員長が第1議題に関する歴史的な報告を行った。

金正恩委員長は、党中央委員会第7期第4回総会が行われた時からこの8カ月間は非常に強度な闘いと果敢な前進の連続であったと述べ、わが党がこの間、常にわが人民の切実な要求と権益、国家の自主権と安全保障を中心に据えて正確な対内外政治路線を樹立して堅持し、それを貫徹するために絶え間なく闘ったことに言及した。

金正恩委員長は、自力富強、自力繁栄の旗印高らかに勇進してきたわれわれの闘いの道のりを新たな勝利に引き続きつないでいくには革命の進軍の歩をより大きく踏み出さなければならないし、現情勢の推移とわれわれに提起された膨大な課題は現実に対する冷徹な判断に基づいた的確で果敢な対策を要すると指摘した。

金正恩委員長は、党中央はわが革命の壮大にしてたゆみない前進途上に直面した主観的および客観的な障害と難関を全面的に深く分析、評価し、社会主義建設をさらに促進させるための決定的対策を講じる趣旨で今回の総会を招集したと述べた。

金正恩委員長は、現情勢と革命発展の要求に即して正面突破戦を行うことに関する革命的路線を宣明した。

金正恩委員長は、党中央委員会第7期第4回総会の決定貫徹のための緊張した闘いの中で自立、自力を原動力とするわれわれの主体的力が一層強化されたと評価し、自力更生の旗印をより高く掲げて社会主義建設の一大高揚期をもたらすことに関する党の呼び掛けに答えてわが国家と人民が難局に立ち向かってとうとうと前進、飛躍していく強靱(きょうじん)な気概と強大な潜在力を大きく誇示したことについて指摘した。

金正恩委員長は、この数カ月間われわれが直面した挑戦は他人なら一日も耐えられずに退く過酷で危険極まりない厳しい難関であったが、いかなる困難も強固な全一体を成して屈することなく進むわが人民の突進を止めることも、遅滞させることもできなかったし、国家の力、国防力の強化で大きな成果を絶え間なく備蓄したことに言及し、次のように続けた。

国防科学技術の先進国だけが保有する先端兵器システムを開発する膨大で複雑なこの事業は、科学技術的側面で革新的な解決策を誰の助けもなしにわれわれ自らが見いだすのを前提

にしたし、これら全ての研究課題は主体的勢力、すなわちわれわれの頼もしい科学者、設計家、軍需労働者階級によって完璧に遂行されました。

これは偉大な勝利となり、党が構想していた展望的な戦略兵器システムがわれわれの手中に一つずつ収めることになったのは、朝鮮の武力発展とわれわれの自主権と生存権を守り、保証する上で大きな出来事になります。

先端国防科学のこのような飛躍は、われわれの軍事技術的強勢を不可逆的なものにし、われわれの国力の上昇をこの上なく促進させるであろうし、周辺政治情勢の統制力を高め、敵には甚大で厳しい不安と恐怖の打撃を与えるでしょう。

今後、米国が時間稼ぎをすればするほど、朝米関係の決算をちゅうちょすればするほど予測できないほど強大になる朝鮮の威力の前に無為無策でやられるしかないようになっており、より一層窮地に陥るようになっていきます。

金正恩委員長は、経済建設分野でも一連の成果が収められたことに言及した。

金正恩委員長は、敵対勢力の悪質な制裁によって多くの制約を受け、不利な気象気候が続いた状況でも今年の農業で過去最高であった年度の収穫を突破する前例のない大豊作になったことと、両江道三池淵市開発の第2段階工事が締めくくられて革命伝統教育の中心地に山間文化都市の立派な標準、理想的なモデル地方都市が誇らしく建設され、仲坪野菜温室農場および育苗場（咸鏡北道）、陽徳温泉文化休養地（平安南道）の建設がわが党の構想通りに完工されたことで、わが人民に先進文明の創造物を贈り物にすることができたことについて述べた。

金正恩委員長は、元山葛麻海岸観光地区（江原道）と順川リン酸肥料工場（平安南道）の建設、漁郎川発電所（咸鏡北道）と端川発電所（咸鏡南道）の建設をはじめ全国の各所で同時に行われる施設の建設も綿密に推進され、金属、石炭、建材の各工業と軽工業をはじめとする人民経済のほとんど全ての部門が顕著な成長の趨勢（すうせい）を示したことに言及した。

金正恩委員長は、全国に自力更生競争を呼び掛けた江原道が党政策貫徹の手本のような経験を引き続き創造し、平安北道をはじめ他の道も競って農産と畜産、教育と保健医療、地方工業の発展ではっきりと実績を上げていることを評価し、これは全ての人民が党の呼び掛けに応じて総決起し、堅忍不拔の増産運動、創造運動を果敢に行ってきた偉大な闘いの必然の結果であると強調した。

金正恩委員長は生じた現情勢の推移を分析し、米国の本心は対話と協議の看板を掲げてぐずぐずして自分らの政治的・外交的利益を満たすと同時に、制裁を引き続き維持してわれわれの力を次第に消耗、弱体化させようということであると断じた。

そして、われわれはわが国家の安全と尊厳、そして未来の安全を何かと絶対に交換しないことをより固く決心したと強調した。

金正恩委員長は、米国がわが国家の根本利益に反する要求を掲げて強盗さながらの態度を取っていることによって朝米間の膠着（こうちゃく）状態は長期性を帯びるを避けられなくなっていると述べ、近頃米国が再び、対話再開問題をあちこち持ち歩いて持続的な対話を触れ回っているが、これは初めから対朝鮮敵視政策を撤回して関係を改善し、問題を解決する用意があつてではなく、四面楚歌（そか）の境遇でわれわれが定めた年末の期限を無難にやり過ぎして致命的な打撃を避けられる時間稼ぎをしようというものにすぎない、対話を唱えながらもわが共和国を完全に窒息させ、圧殺するための挑発的な政治的・軍事的・経済的悪巧みをさらに露骨にしているのが強盗の米国の二面的態度であると釘を刺した。

金正恩委員長は、われわれは決して破廉恥な米国が朝米対話を不純な目的の実現に悪用するのを絶対に許さず、今までわが人民が受けた苦痛と抑制された発展の代価をきれいに全て受け取るための衝撃的な実際の行動に移るであろうと述べ、次のように続けた。

われわれにとって経済建設に有利な対外的環境が切実に必要なのは事実であるが、決して華麗な変身を願ってこれまで生命のように守ってきた尊厳を売り渡すことはせません。

世紀をまたいだ朝米対決はこんにち、自力更生と制裁との対決に圧縮されて明白な対決の構図を描いています。

核問題でなくても米国は、われわれにまた別の何かを標的に定めて襲い掛かるであろうし、米国の軍事的・政治的威嚇は終わらないでしょう。

米国との長期的対立を予告する生じた現情勢は、われわれが今後も敵対勢力の制裁の中で生きていかなければならないことを既成事実化し、各方面で内部の力をより強化することを切実に求めています。

金正恩委員長は、敵との熾烈（しれつ）な対決は常に自らの勢力強化のための活動を伴い、自分を強くする活動が先行されてこそ主導権を握って勝利を獲得できると述べ、自力強化の見地から見ると、国家管理と経済活動をはじめその他の分野で正すべき問題が少なくないことに言及した。

金正恩委員長は、自力更生、自給自足しようと言い続けているが、これを実行するわれわれの活動は過去の惰性から脱皮できていないと述べ、自立、自強の壮大な偉業をけん引して推し進めるには不十分であり、大胆に革新できず、沈滞している国家管理事業と経済活動など現在の実態について分析した。

金正恩委員長は、専ら革命の任務を自ら担って遂行しようとする強い責任感、今日と明日を背負って立ち、正確に切り開いていく知恵と勇気だけがわれわれの偉業を成功裏に推し進めていけると述べ、党の指導体系がしっかり打ち立てられており、全党が思想的、精神的に統一され、人民が切実に求めているので問題になることはないことを強調した。

金正恩委員長は、党中央指導機関のメンバーと全ての活動家が今回の総会を契機に自分の部門、自分の部署に存在する難関を自分の活動に内在している欠点と結び付けて深刻に分析してみなければならないと述べ、現情勢下で社会主義強国の建設に寄与している自分の部門、自分の部署の役割を厳密に問いただし、落胆したり動揺することなく重い課題を力強く担って頑強に突進していく覚悟を持たなければならないと指摘した。

金正恩委員長は、苦勞と闘いなしには偉大な勝利を得られないし、革命の勝利は必然であるが、何の障害も困難もなく成し遂げられるものではないと述べ、次のように続けた。

敵対勢力の制裁、圧力を無力化し、社会主義建設の新たな活路を開く正面突破戦を強行しなければなりません。正面突破戦はわが革命の当面の任務からも、展望的な要求からも必ず遂行すべき時代の課題です。

もし、われわれが制裁の解除を待つて自強力を育む闘いに拍車を掛けないなら敵の反動攻勢はさらに激しくなり、われわれの前進を阻もうと襲い掛かるでしょう。

われわれが自らの威力を強化し、自力更生、自給自足の高価な富をより多く創造するほど敵はより一層大きな苦悩に陥ることになり、社会主義勝利の日はそれだけ早められるでしょう。

全ての党組織と活動家は、時代が付与した重大な任務を喜んで担い、自力更生の威力で敵の制裁・封鎖策動を総破綻させる正面突破戦にまい進しなければなりません。

「われわれの前進を妨げる全ての難関を正面突破戦で切り抜けていこう！」、これがこんにち、全党と全ての人民が掲げていくべき闘いのスローガンです。

金正恩委員長は、こんにちの正面突破戦で基本戦線は経済戦線であると述べ、国の経済基盤を再整備し、可能な生産潜在力を全て動員して経済発展と人民生活に必要な需要を十分に満たすことを現在、経済部門に提起される当面の課題に示した。

金正恩委員長は現在の国の経済の実態に言及し、国家経済の発展動力が回復せずに国の状況が目立って良くなっていないし、重要な経済課題を解決するための国家の執行力、統制力が微弱であることについて指摘した。

また、峻厳な難局に直面した重大で要の時期に経済部門の対応が機敏で十分ではなく、自力更生するとスローガンばかり叫んで実際は人民経済の自立的土台の整備、補強に力を入れていない弊害について具体的な資料を挙げて事細かに指摘した。

金正恩委員長は、経済活動に対する統一的指導と戦略的管理を実現し、企業体の経営管理方法を改善する活動で明確な前進がないので国家の経済組織者としての役割が強化されなかったし、経済全般を整備、補強し、活性化して成長段階に移行するための活動で重大な問題が発生していることについて指摘した。

金正恩委員長は、経済活動の体系と秩序を整頓するための綱領的な課題を示した。

金正恩委員長は、われわれが優先的に解決すべき問題は経済活動の体系と秩序を合理的に整頓することであると述べ、わが共和国が強大な力を備蓄して全ての面で正常な発展を志向しているこんにちになってまでこれまでの過渡的で臨時的な活動方式を引き続き踏襲する必要はないことに言及した。

また、国の経済を再整備するには決定的に経済活動に対する国家の統一的指導と戦略的管理を実現するための強い対策を立てなければならないと述べ、経済司令部としての内閣がその責任を果たせていない深刻な現在の実態を厳責し、国家経済活動体系の中核である内閣責任制、内閣中心制を強化するための根本的な方途について明らかにした。

金正恩委員長は、内閣は現存の経済基盤を効果的に利用して国家の財政を強化し、生産部署も活性化できるように経済作戦を正し、手配を緻密で綿密に行うべきであり、当面国家経済の命脈と全一性を固守する活動から内閣の統一的指導と指揮を行わなければならないことに言及した。

また、革命的な思想と精神は時代に先んじなければならないが、経済活動は現実にはしっかり基づいて行わなければならないと述べ、現実の要求に即して計画事業を改善するための明確な方案を探して全般的な生産と供給の均衡を図り、人民経済計画の信頼度を決定的に高めるための要の問題を示した。

金正恩委員長は、内閣の活動はすなわち党中央委員会の活動であり、党中央委員会の決定執行はすなわち内閣の活動であることについて強調し、総会後から経済活動に対する国家の統一的な指導と管理を強化する上で早急に解決すべき重大な問題を解剖学的に分析した。

そして、経済の発展を促し、活動家の役割を高められるように全般的な機構体系を整備するための革新的な対策と具体的な方案を示し、それに基づいて経済管理を改善する活動を強く推し進められる現実的な方途を明らかにした。

金正恩委員長は、国家商業体系、社会主義商業を早急に復元して社会主義商業の本態を固守しながらも、国家の利益と人民の便宜を共に図れるように商業サービスを改善するための方法論を研究し、対策を立てる問題、世界が分秒を争って新しい技術、新しい製品の開発競争を行っている時代の要求に即して経済管理を改善する上で不必要な手続きと制度を整理する問題、国家管理と経済活動で生産活動にブレーキをかけ、活動能率を低下させる要素を漏れなく探して正す問題、国家的に専門建設陣を拡大、強化し、建設装備を現代化して重要プロジェクトの建設を担って遂行させる方向へと進む問題、社会主義企業責任管理体制を現実的に実施する活動をしっかり行う問題をはじめ全党的、全国的に強力に推進すべき経済成長の要の問題に関する解決方向を明示した。

金正恩委員長は、人民経済の主要工業部門の課題を具体的に示した。

金正恩委員長は、自立経済を支える主要工業部門がまず折り重なる難関を正面突破して実際の生産の高揚を起こさなければならないと述べ、金属工業、化学工業、電力工業、石炭工業、機械工業、建材工業、鉄道輸送、軽工業の各部門に山積している弊害と不振状態を全面的に分析し、経済活動で一步前進するための科学的で実質的な対策を一つ一つ示した。

金正恩委員長は、自分の力を信じられないその場しのぎ式の投資、自前の潜在力に依拠しない場当たり式の投資は底が抜けた壺に水を注ぐようなものであり、経済活動は一步も前進を遂げられないと述べ、未来を見通して展望を持って活動するのが革命に責任を持つ当然の態度であることについて強調した。

金正恩委員長は、国の経済を安定的に、展望を持って発展させるための10大展望目標の指標別計画を科学的に正確に打算して立て、それを遂行する闘いを行って国の経済基盤をきちんと強固に打ち固めていかななければならないと述べ、展望目標が確定すれば国家的に経済

の手配と指揮を綿密に行い、人民挙げての生産闘争と創造闘争を猛烈に行ってそれを必ず達成しなければならないと指摘した。

金正恩委員長は、農業生産を決定的に増やすことについて強調した。

金正恩委員長は、農業戦線は正面突破戦の主戦場であると述べ、農業部門が科学農法を捉えて多収穫機運をさらに激しく起こすことについて指摘し、農業部門の科学技術陣と農業科学研究機関をしっかりと整える問題、農業科学技術人材の育成に力を入れる問題、農村水利をさらに完成させて凶作を知らない農業生産基盤を築く問題、農作業の機械化の割合を高めて国の農地を一つの線で統一的に管理する問題をはじめ畜産業と果樹栽培業など、農業の全ての分野で新たな転換をもたらすための重要な問題を提起した。

金正恩委員長は、科学・教育・保健医療事業を改善することに言及した。

金正恩委員長は、こんにち、われわれが依拠する無尽蔵な戦略資産は科学技術であると述べ、現在のように経済活動で隘路（あいろ）が多いときは科学技術がともしびとなって前を照らし、発展を先導していくべきであろうと指摘した。

金正恩委員長は、党組織は科学者、技術者に科学戦線で突破口を開いてこそ社会主義建設の全ての戦線が勝利し、強国の理想と目標も専ら科学の先端要塞（ようさい）を占領するための苦心の探求と身を投じることによってのみ実現するという自覚を植え付けなければならないと強調した。

金正恩委員長は、科学研究に対する政策的指導をしっかり行わなければならないと述べ、国家科学技術委員会と国家科学院をはじめとする科学研究および教育機関と省、中央機関は科学技術部門の10大展望目標に予見された研究課題を無条件期限内に完成させる活動を綿密に行ってわが国を先端科学技術開発国、先進文明開発国に変貌させるのに寄与しなければならないと指摘した。

また、科学が経済発展をけん引する機関車なら、科学の母は教育であると述べ、金日成総合大学（平壤）をはじめとする全般的な大学の構成と教育綱領を現実発展と世界的趨勢に即して絶えず改善していく問題、教育部門が教育内容を実用化、総合化、現代化して教育と科学研究、生産を密着させ、教育の条件と環境を改変して中央と地方の教育水準の差を縮める活動を実質的に推し進めて才能ある人材と価値ある科学技術成果をより多く出す問題、教員隊列を質的に強化する問題、教育の条件と環境を一新する活動を手間を掛けて実質的に行う問題をはじめ教育革命の時代に合わせて国の教育を根本的に改善するための課題と方途を提起した。

金正恩委員長は、保健医療はわれわれの制度の優位性が人民の肌に直接触れる社会主義の姿の主要徴表であると指摘し、金日成主席と金正日総書記がもたらした世界で最も優れたわれわれの社会主義保健医療がその本態を守り、保健医療部門の物質的・技術的土台を強化し、全ての医療従事者を限りない人間愛と高い医学的資質を備えた労働党の赤い保健医療戦士に育てる上での重要な問題を提起した。

金正恩委員長は、増産・節約および品質向上運動を力強く行い、生態環境を保護し、自然災害防止対策を徹底的に立てることに言及した。

金正恩委員長は、こんにちの正面突破戦は数百万の勤労大衆の高揚した熱意と創造的努力に依拠した壮大な愛国闘争であると述べ、全ての部門、全ての部署が、そして全ての公民が最大限に増産、節約してわれわれのものをより多く創造し、極力惜しんで使うとき、敵対勢力がいくら制裁してもわれわれの経済は揺るぎなく、われわれの暮らしはより潤沢になるであろうと指摘した。

金正恩委員長は、こんにちの時代に押し立てるべき手本は節約精神を体質化した愛国的な勤労者であり、省力型、省エネ型、コスト節約型、敷地節約型の企業であると述べ、全社会的に節電闘争を力強く行う問題、自分の部門、自分の部署の実情に即して予備を探し出し、より多く増産、節約する競争機運を起こす問題、全ての部門、全ての部署がまず質、次に量の原則で生産物、創造物の質を高めるのに優先的な力を入れる問題、生態環境を徹底的に保

護するための決定的な対策を立て、自然災害に対応するための国家的な危機管理システムを整然と立てる問題を提起した。

金正恩委員長は、われわれの荘厳な正面突破戦を政治・外交的に、軍事的に保証することについて強調した。

金正恩委員長は、前代未聞の過酷な挑戦と難関を切り抜けていく正面突破戦で必ず勝利するには強力な政治・外交的、軍事的な保証がなければならないと述べ、生じた形勢に対処して外交戦線をさらに強化するための方略を提起した。

金正恩委員長は、朝鮮半島に生じた峻厳な情勢と多岐多端な現在の国際関係の構図を全面的に深く分析したのに基づいてわが国家の自主権と安全を頼もしく保障するための攻勢的な措置を講じることに関する綱領的な課題を示した。

金正恩委員長は、米国がこの70余年間、わが国家を敵に、「悪の枢軸」「核先制攻撃対象」に規定して最も野蛮で非人間的な制裁と持続的な核の威嚇を加えてきたし、米国の対朝鮮敵視政策によってこんにち、朝鮮半島情勢はさらに危険で重大な段階に至っていると指摘した。

金正恩委員長は、われわれが朝米間の信頼構築のために核実験と大陸間弾道ミサイル（ICBM）試射を中止し、核実験場を廃棄する先んじた重大措置を講じたこの2年間だけでも、米国はそれ相応の措置で応えるどころか、大統領が直接中止を公約した大小の合同軍事演習を数十回も行い、先端戦争装備を南朝鮮に搬入してわれわれを軍事的に脅かしたし、十余回の単独制裁措置を講じることによってわれわれの体制を圧殺しようとする野望には変わりがないことを改めて世界に証明したと述べた。

そして、このような状況で、守る相手も居ない公約にわれわれがこれ以上一方的に縛られている根拠がなくなったし、これは世界的な核軍縮と核拡散防止のためのわれわれの努力にも冷や水を浴びせていることに言及した。

金正恩委員長は、生じた情勢はわれわれが既に宣明したように、敵対勢力がわれわれの自主権と安全にむやみに手出しできないようにわれわれの力を必要なだけ養ってわれわれ自身を守る道だけが、われわれが力に余っても中断なく、そしてちゅうちょなく歩むべき道であることを実証していると述べ、わが党の対米政策的立場を宣明した。

金正恩委員長は、誰も手出しできない無敵の軍事力を保有して引き続き強化していくのはわが党の揺るぎない国防建設の目標であると述べ、いかなる勢力であれ、われわれを相手にむやみに武力を使用する気が起きないようにするのがわが党の国防建設の中核の構想であり、確固不動の意志であることに言及した。

金正恩委員長は、戦略兵器の開発もより活発に推し進めていかななければならないと述べ、米国の強盗さながらの行為によってわれわれの対外環境が並進の道を歩む時も、経済建設に総力を集中する闘いを行っている今も全く変わったものがなく、依然として敵対的行為と核の威嚇、恐喝が増大している現実からわれわれは可視的な経済成果と福楽だけを見て未来の安全を放棄できないと断言し、これから世界は遠からず朝鮮が保有することになる新たな戦略兵器を目撃することになるであろうと確言した。

金正恩委員長は、米国の本心を見破ったこの期に及んでまで、米国に制裁解除の類いに縛られていかなる期待などを持ってちゅうちょする必要が何もないし、米国が対朝鮮敵視政策を最後まで追求するなら朝鮮半島の非核化は永遠にないこと、米国の対朝鮮敵視が撤回され、朝鮮半島に恒久的で強固な平和体制が構築されるときまで国家安全のための必須で先決すべき戦略兵器の開発を中断なく引き続きたゆみなく行っていくことを断固宣言した。

金正恩委員長は、米国の核の威嚇を制圧し、われわれの長期的な安全を保証できる強力な核抑止力の経常的な動員態勢を恒常的に頼もしく維持し、われわれの抑止力強化の幅と深度は米国の今後の対朝鮮立場によって上方修正されることに言及した。

金正恩委員長は、わが国に大国が保有する絶対兵器が生まれたのも大きな成果であるが、この過程を通じて科学技術の優れた人材部隊が育ったのがこの上なくうれしいし、これがわが党がより大切にす成果であると述べた。

金正恩委員長は、国防科学研究部門と軍需工業部門が徹頭徹尾、自力とチュチェの原則を堅持し、既下達された段階別の目標を達成するためにより高く、より速くのスローガンを掲げて党の国防建設路線に忠実かつ完璧に従っていかなければならないと指摘した。

金正恩委員長は、党が示した戦略的方針に従って国の自主権と安全、人民の幸福な未来をしっかりと保証するための国防建設事業に引き続き全国家的な総力と深い関心、惜しみない支援を伴わせなければならぬと述べ、国防工業部門の活動家と科学者はこの3年間厳しい闘いを行って核戦争抑止力を握ったその氣勢、その気概通りに党と革命に対する変わらない忠誠心を抱いて国の防衛力をあらゆる面から打ち固めていく聖なる活動にまい進することについて強調した。

金正恩委員長は、全党的、全国家的、全社会的に反社会主義、非社会主義の現象を一掃する闘いを高い強度で展開し、勤労者団体の活動を強化し、全社会的に道徳、紀綱を強く立てる問題を提起した。

金正恩委員長は、革命の参謀部である党を強化し、その指導力を著しく高めることに言及した。

金正恩委員長は、わが革命の実践的経験からも、社会主義建設の歴史的教訓からも前進途上に横たわった現在の局面を打開して力強く前進するためには党を強化するのに引き続き大きな力を入れなければならぬと述べ、この8年間、主席と総書記の志通りにわが党をチュチェ革命偉業を嚮導（きょうどう）する不敗の党に強化し、発展させるのに一番多くの手間を掛けたことについて強調した。

金正恩委員長は、党が革命の参謀部としての指導的使命を遂行する上で重要なのは各時期に党員と勤労者に進むべき方向と闘争目標、課題と方途を正確に明示し、その実現のための闘いへと巧みに組織、動員することであり、党の嚮導力を不敗のものに打ち固める上で重要なのは人民大衆の絶対的な支持と信頼を得る党、人民大衆と混然一体を成した党に建設することであると指摘した。

金正恩委員長は、時代と革命発展の要求に即して党を組織・思想的にさらに強化し、幹部の役割を高める上で提起される原則的問題と実践的対策を提起した。

金正恩委員長は、わが革命は力強く前進しているが、これに反発する敵対勢力の挑戦は執拗（しつよう）であり、直面した難関も侮れないと述べ、革命の最後の勝利のために、偉大なわが人民を豊かに暮らせるようにするためにわが党は再び艱苦（かんく）で長久な闘いを決心したと強調し、次のように続けた。

こんにちのこの社会主義の運命の岐路での勝ちと敗けの決定は、専らわが党の団結した威力とその嚮導的役割に懸かっています。

わが党は直面した難関の前で正確な自らの指導力を発揮するであろうし、絶対に揺らがないでしょう。

わが党は屈せず真つすぐ立ち、米国とそれに追従する敵対勢力に引き続き甚大な打撃を加えるでしょう。

そして、常にわが人民と苦楽を共にするでしょう。

金正恩委員長は、わが人民は歴史がかつて知らない長期的で過酷な環境の中で自らの力で生きていく方法、敵と難関に勝つ方法、自らの尊厳と権利を守る方法を学んだと述べ、ベルトを締め上げて（覚悟して困難に耐え、立ち向かうの意）でも必ず自力富強、自力繁栄して国の尊厳を守り、帝国主義に打ち勝つというのがわれわれの強い革命の信念であると宣明した。

金正恩委員長は、われわれ皆が不屈の革命の信念と炎のような祖国愛、堅忍不拔の闘争精神で引き続き力強く闘うなら難関は撃破されるであろうし、「世界にうらやむものはない」の歌が全国の全ての人民の実生活になる新たな勝利を迎えることになるであろうと確言し、こぞって革命の前に横たわった峻厳な難局を正面突破し、社会主義強国建設の抱負と理想を実現するためのこんにちの栄光ある闘いで先駆者、旗手になって勝利の進撃路を力強く開いていこうと熱烈に呼び掛けた。

金正恩委員長の報告を慎重に静聴して全ての参加者は、生じた現情勢と革命発展の要求に備えてわれわれの主体的力、内的動力をあらゆる面から強化することで、革命的進軍を妨害するあらゆる挑戦と難関を根こそぎにして社会主義強国建設をより力強く推し進めようとする党中央の意図を正確に心に刻んだ。

金正恩委員長が綱領的な報告を終えると、全ての参加者は祖国と人民、革命に対する偉大な責任感と絶対不変の革命の信念、千里慧眼（けいがん）の英知と先見の明でわが党と人民が進むべき最も科学的で革命的な進路を明示した金正恩委員長を仰いで熱狂的な拍手と嵐のような「万歳！」の歓呼の声を上げ、絶対的な支持と賛同を表した。

総会では、第1議題に対する書面討論が提起された。

朝鮮労働党の朴奉珠副委員長、金才竜総理、朝鮮最高人民会議常任委員会の太亨徹副委員長、朝鮮労働党組織指導部の趙甬元第1副部長、朝鮮人民軍の朴正天総参謀長、金日成・金正日主義青年同盟の朴鉄民委員長、国家科学技術委員会の李忠吉委員長、平安北道農村経営委員会のケ・ミョン Chol 委員長、金策製鉄連合企業所（咸鏡北道）のキム・グァンナム支配人をはじめ多くの参加者が討論に参加した。

各討論者は、社会主義強国建設の新たな勝利の活路を開いていくための党中央の雄大な作戦図、設計図を受け取った大きな感激と興奮を吐露し、社会主義建設の前進途上に横たわるあらゆる挑戦と難関を断固排し、自力復興の大業を繰り上げて実現していくことに関する委員長の卓越した正面突破思想と戦略、実践綱領に全幅の支持を表した。

そして、金正恩委員長が行った歴史的な報告の思想と精神に則って自分の部門、自分の部署に内在する偏向と本質的欠点、その根本原因を深刻に総括した。

各討論者は、朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会の基本精神を活動家と党員と勤労者に深く体得させ、政治・思想教育を攻勢的に行って彼ら皆を百折不撓（ふとう）の革命精神を骨身に深く体質化した自力、自力の闘士、真の愛国者に準備させ、自分の実情に即した自力更生戦略で増産闘争と現代化を力強く行うよう舵取りとけん引をしっかりと行っていくことで、党中央が示した正面突破戦に関する思想と意図を誇らしい実践で支えていくことを本総会に厳かに誓った。

総会では、第1議題に関する決定書の草案について慎重で積極的な研究、討議が行われたのに従って決定書が全会一致で採択された。

決定書には次のような決定が明示されている。

1. 国の経済基盤を再整備し、可能な生産の潜在力を総動員して経済発展と人民生活に必要な需要を十分に満たす。

2. 科学技術を重視し、社会主義制度の姿である教育・保健医療事業を改善する。

3. 生態環境を保護し、自然災害に対応するための国家的な危機管理体系を立てる。

4. 強力な政治・外交的、軍事的な攻勢で正面突破戦の勝利を保証する。

5. 反社会主義、非社会主義との闘いを強化して道徳、紀綱を立て、勤労者団体組織が思想教育を綿密に行う。

6. 革命の参謀部である党を強化し、その指導力を著しく高める。

7. 革命の指揮メンバーである活動家が社会主義建設の前進途上に横たわった難関を切り抜ける正面突破戦で党と革命、人民に担った自らの責任と任務を全うするために奮闘する。

8. 各級党組織と政治機関はこの決定書を執行するための組織・政治活動を綿密に行い、最高人民会議常任委員会、内閣をはじめとする当該の機関は決定書に示された課題を徹底的に執行するための実務的措置を取る。

総会では、第2議題である人事を行った。

党中央委員会政治局委員および委員候補を解任、補選した。

李日煥、李炳哲、金徳訓の各氏を党中央委員会政治局委員に補選した。

金正官、朴正天、金衡俊、ホ・チョルマン、リ・ホリム、キム・イル Chol の各氏を党中央委員会政治局委員候補に補選した。

党中央委員会副委員長を解任、選出した。

李日煥、金衡俊、李炳哲、金徳訓の各氏を党中央委員会副委員長に選出した。

党中央委員会委員および委員候補を解任、補選した。

金衡俊、韓光相、姜宗官、金光哲、金京準、楊勝虎、クァク・チャンシク、パク・クァンジュ、パク・ミョンス、李逢春、松碩元の各氏を党中央委員会委員候補から委員に、ホ・チョルマン、リ・ホリム、呉日晶、金英欽、キム・イルチョル、キム・ジョンホ、ソン・ヨンフン、リム・グァンイル、崔相建の各氏を党中央委員会委員に直接補選した。

チャン・グァンミョン、チョン・ヒョンチョル、シム・ホンビン、リ・テイル、チュ・グァンイル、リ・ワンシク、リ・ヨンチョル、チュ・チュンギル、キム・ハクチョル、キム・チョル、パク・チョングン、チョン・ハクチョル、チョ・ヨンドク、シン・ヨンチョル、キム・スンジン、ムン・ジョンウン、リ・ジョンギル、チュ・ソンナム、チョン・ヒョンギル、カン・ソン、キム・ヨンベ、キム・ギリョン、シン・ホンチョル、キム・ヨンナムの各氏を党中央委員会委員候補に補選した。

党中央検閲委員会委員長の選出と委員の解任、補選があった。

李象元氏を党中央委員会検閲委員会委員長に選出した。

党中央委員会の一部の部署の部長を解任、任命した。

李日煥、金衡俊、崔輝、李炳哲、金徳訓、崔富一、ホ・チョルマン、リ・ホリム、韓光相、呉日晶の各氏を党中央委員会部長に任命した。

党中央委員会第1副部長を任命した。

金銅日、李永吉、金与正、李英植の各氏を党中央委員会第1副部長に任命した。

党道委員長を解任、任命した。

金英欽氏を党両江道委員長に任命した。

国家機関の幹部を解任、任命した。

キム・イルチョル氏を副総理兼国家計画委員長、チョン・ハクチョル氏を石炭工業相、チョン・ミョンシク氏を文化相、キム・スンジン氏を国家科学院院長に任命した。

総会では、第3議題として党中央委員会のスローガン集を修正、補充する問題を討議、決定した。

総会では、第4議題として朝鮮労働党創立75周年を盛大に記念する問題を討議して当該の決定を採択した。

金正恩委員長は総会を終えるに当たり、今回の総会が生じた局面を正面突破してわが革命を新たな高揚へと上昇させる上で持つ意義と重要性について指摘し、次のように強調した。

党中央委員会第7期第5回総会の基本思想、基本精神は、情勢が良くなるのを座して待つのではなく、正面突破戦を行わなければならないということです。

言い換えれば、米国と敵対勢力がわれわれが安心して暮らせるように放っておくという夢は見えてはならないし、社会主義建設の前進途上に横たわる難関を専ら自力更生の力で正面突破しなければならないということです。

われわれは、こんにちの闘いで客観的要因の支配を受けてそれに順応する道を探るのではなく、正面突破戦で切り抜けて客観的要因がわれわれに支配されるようにしなければなりません。

金正恩委員長は、党中央委員会第7期第5回総会が示した課題貫徹のための全党的な受諾、討議を実質的に行わなければならないと述べ、討議が広範な大衆に接近されず行事式に行われる傾向を克服し、会議の思想をその執行の直接的な担当者である党員大衆に正確に伝えて浸透させ、この過程が専ら全隊伍（たいご）を覚醒、発奮させて総会の決定貫徹のための闘いへと奮い起こす思想動員過程、作戦過程、任務分担過程になるようにしなければならないと指摘した。

金正恩委員長は、活動家と党員と勤労者に党中央委員会総会の思想を伝えて浸透させる活動で重点を置くべき問題と、総会の課題貫徹のための作戦と任務分担を緻密に行うことについて一つ一つ教え、全ての部門、全ての部署がこんにちの正面突破戦でスローガンばかり叫

んで空言にならないよう各自の任務をしっかりと確定し、党政策を執行するための具体的な計画と正しい方法論を立てて実践的な対策を講じなければならないと強調した。

金正恩委員長は、革命家が革命を行うにはわが人民から得る貴い信頼を生全部として受け取らなければならないと述べ、わが人民のような立派な人民のために駆けてまた駆ける忠実で勤勉な人民のしもべになろうということを熱烈に呼び掛けた。

朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会は、時代が付与した重大な任務をしっかりと担って自力富強、自力繁栄の活路を開く榮譽ある闘いに全党、全人民、全軍を総決起、まい進させる上で革命の指揮メンバーとしての責任と本分を全うしようとする全ての参加者の並々ならぬ政治的自覚と革命的熱意の中で成功裏に行われた。

金正恩委員長は、歴史的な党中央委員会第7期第5回総会が行われた意義深い場所で党中央指導機関のメンバーと共に記念写真を撮った。

金正恩委員長の指導の下に行われた党中央委員会第7期第5回総会は、わが人民の全ての勝利の組織者、嚮導者である尊厳あるわが党の指導力と党の周りに固く結集し、自力富強、自力繁栄の不変の針路に従って勇進しようとするわが人民の確固不動の信念と意志を誇示し、革命偉業の正当性と自分の力を固く信じて進むチュチェ朝鮮の百折不撓の攻撃精神を全世界にとどろかした歴史的な大会としてわが党と祖国の青史にさんぜんと光を放つであろう。

●朝鮮中央通信社論評：NHK「ミサイル誤報」騒動の狙い（1/6）

朝鮮中央通信社は6日、「何を狙った『誤報』騒動なのか」と題する全文次のような論評を発表した。

野望達成のためなら何もわきまえない日本の正体が改めてあらわになった。

新年を前に日本のNHKは「北朝鮮のミサイル 海に落下と推定 北海道襟裳岬の東約2000キロ」と報じ、20余分がたって「ミス」だの、「誤報」だのと世間を騒がせた。

いわゆる高度な技術を自慢する日本で頻繁に起こるこのような「誤報」騒動を単にミスや錯覚と見るには、その中に内在する下心が非常に危険である。

それは明白に、自国内にわれわれに対する恐怖の雰囲気醸成し、それを奇貨として再侵略のための武力近代化を進めようとする下心の明確な表れである。

「誤報」騒動と時を同じくして日本のメディアが、2020年から日本防衛省が中距離地对空誘導弾が装着された現行のミサイル防衛（MD）システムを近代化する計画であり、今後数年内に完成させるつもりであると公表した事実がこれを実証している。

これまで、日本は誰その脅威に対処するとの口実の下に再侵略のための軍事大国化の足場を「着実に」築いてきたし、その準備の完成さらに本格的に取り組んでいる。

再び島国を戦争国家にしようと狂奔する日本の反動層の危険な企図は、民心の排撃を受けている。

昨年11月、日本で平和憲法の公布日に際して全国的な改憲反対デモが行われ、「戦争と武力保有を禁止した平和憲法を必ず守らなければならない」との声が上がったのがその代表的な実例である。

何としても昔の植民地宗主国の地位を再び獲得しようとする軍国主義野望に狂った日本の反動層と、その上改憲を一世一代の政治目標に掲げた安倍（晋三）首相にとって、憲法改正に対する社会的支持を得るのは最大の急務として提起されている。

日本の反動層が民心を逆転させて一石二鳥の効果を得ようと考案したのがまさにミサイル「誤報」騒動である。

外電は、NHKが去る2018年1月にも類似した虚偽の警報を流していると報じ、「これら全てが、朝鮮に対する敵対的立場を維持するために安倍政府が意図的にでっち上げた可能性も排除できない」と一様に評している。

そして、「日本の国営メディアがこのような『とんでもないミス』を犯すのが理解できない」「このような虚偽の警報が武力紛争に拡大しかねない今のように緊迫した時点で『無責任なミス』が軽視されてはならない」と強く非難している。

国民の間にわれわれに対する恐怖症と反発心を引き起こし、国際社会の目を曇らせようとする日本の反動層の狡猾（こうかつ）な術数は絶対に通じない。

日本が再侵略野望に浮かされて盗っ人たけだけしく騒ぎ回っては、滅亡の時を早める結果だけを招くであろう。

●金桂官外務省顧問の談話：対話再開、米国が要求同意なら可能（1/11）

新年の年頭から南朝鮮当局がわが国務委員長に送る米大統領の誕生日の祝賀メッセージを緊急に伝えると大騒ぎしている。

米大統領がワシントンを訪れた青瓦台関係者に会った席上、わが国務委員長に忘れずに伝えてほしいと託した内容であるとして南朝鮮当局が緊急通知文でその旨を知らせてきたが、恐らく南朝鮮当局は朝米首脳間に特別な連絡ルートが別にあることをまだ知らないようである。

南朝鮮当局が息を切らし、興奮して身を震わせ、緊急通知文で知らせてきた米大統領の誕生日の祝賀メッセージなるものをわれわれは米大統領の親書で直接受け取った状態である。

家族でもない南朝鮮がわが国務委員長に送る米大統領の祝賀メッセージを伝えると軽々しいが、自分らが朝米関係で「仲裁者」の役割を果たそうとする未練が依然として残っているようである。

首脳間で親交を結ぶのは国家間の外交で自然なことであるが、南朝鮮が金正恩国務委員長とトランプ大統領の親交関係に差し出がましく割り込むのは少しせんえつであると言わなければならない。

周知のように、わが国務委員長とトランプ大統領の親交関係が悪くないのは事実である。

しかし、そのような親交関係を基に、もしかしてわれわれが再び米国との対話に復帰するのではないかという期待感を持ち、またその方向に雰囲気をつくっていこうと頭を回すのは愚かな考えである。

われわれは、米国との対話のテーブルで1年半以上だまされ、時間を失った。

たとえ、金正恩国務委員長が個人的にトランプ大統領に対する好感を持っているとしても、それはあくまでも文字通り「個人」的な感情だけであり、国務委員長はわが国家を代表し、国家の利益を代弁する方としてそのような私的な感情を基に国事を論じはしないであろう。

明白なのは、もはや再びわれわれが米国にだまされてこれまでのように時間を捨てることは絶対にないということである。

平和的人民が経る苦勞を少しでも減らそうと一部の国連制裁と国の中核の核施設を丸ごと換えようと提案したベトナムでのような協議は二度とないであろう。

われわれには、一方的に強要されるそのような会談に再び臨む必要がなく、会談のテーブルで商売人のように何かと何かを交換する意欲も全くない。

朝米間に再び対話が成立するには米国が、われわれが示した要求事項を全面的に同意する状況でのみ可能であると言えるが、われわれは米国がそうする準備ができていないし、またそうすることもできないのをよく知っている。

われわれは、われわれが行く道をよく知っており、われわれの道を行くであろう。

南朝鮮当局は、このような状況でわれわれがいわゆる誕生日の祝賀メッセージを伝えられたとして誰かのように大いにありがたがって対話に復帰するであろうというはかない夢を見るのではなく、割り込んでも元手も取れないばかな目に遭いたくないなら自重している方が良からう。

●朝鮮中央通信社論評：「宇宙は侵略国家の活躍の舞台になり得ない」（1/18）

航空宇宙「自衛隊」改称は危険な妄動

最近、日本が宇宙空間まで「防衛力」強化という不純な目的に悪用しようとして狂奔している。日本が航空「自衛隊」を航空宇宙「自衛隊」に改称しようとしている。

既にこの方向で検討に入ったし、2023年までの改称を目指して「自衛隊」法など法改正の調整を始めるという。これにより、昨年9月の「自衛隊」高級幹部会同で航空「自衛隊」の宇宙作戦隊創設をうんぬんし、「航空宇宙自衛隊への進化ももはや夢物語ではない」と述べた安倍（晋三）首相のラップが現実化しているのが立証された。

「宇宙空間での防衛力強化を図るためのもの」という美名の下に推し進められるこのような動きは、「自衛隊」の活動領域を宇宙空間にまで拡大して軍事大国化の野望を必ず実現しようとする危険極まりない妄動にほかならない。

平和目的に利用されるべき宇宙空間を20世紀に人類に反対する侵略戦争を起こしてあらゆる歯ぎしりする犯罪を働いた日本が、生唾を飲み込んでうかがっているのは決して黙過できないことである。

こんにちまでも日本は、国際社会に血なまぐさい罪悪でまみれた過去の歴史を美化、粉飾し、復活させるためにあがく戦犯国、海外侵略を夢見る戦争勢力の烙印（らくいん）を押されている。その上、今、日本の全ての動きは軍事大国化、海外侵略野望の実現へと急速に志向されている。

年頭から日本の反動層は、「今こそ新しい時代に向けた国づくりを力強く進める時である」と言い散らし、交戦権放棄と戦力不保持を明記した平和憲法を戦争憲法に変えるのに拍車を掛けている。

安倍政権の発足後、日本の防衛費は毎年連続で史上最高記録に増加しており、既に防衛省の来年度予算案には宇宙作戦隊の新設をはじめ、関連費用として506億円も含まれている。

今年、航空「自衛隊」に20人規模で創設される宇宙作戦隊を2022年度には100人規模に拡大し、翌年からは本格的な運用に入ろうとしている。

敗北後、これまで「専守防衛」の美名の下に「自衛隊」の攻撃能力を世界的な水準へと強化し、その活動半径を全地球的範囲に拡張した日本が今後、その欺瞞（ぎまん）的な足かせまで解いてしまう憲法改正と宇宙の軍事化を通じて何を追求するのかは火を見るよりも明らかである。

日本こそ、覆い隠せない平和の脅威勢力、破壊勢力である。宇宙は絶対に侵略国家、戦争国家の活躍の舞台になり得ない。

日本の反動層が追求する航空宇宙「自衛隊」、軍事大国化への「進化」は、戦犯国の悲惨な終末につながるであろう。

●朝鮮中央通信：朝鮮半島の緊張激化させる南朝鮮の軍事的動き（1/27）

南朝鮮軍部が新年の初めから不純な目的を持って騒ぎを起こしている。

国防部長官は1日、南朝鮮軍に下達した「指揮書信」なるもので連合訓練と演習を通じた鉄の連合防衛体制の維持について騒ぎ立てた。

最近、共和国に露骨に言い掛かりをつけて「抜かりない軍事対応態勢」、軍による「北の非核化と朝鮮半島平和」の後押しを力説した。

合同参謀本部議長も、誰それによる軍事的脅威の高まりと敵の挑発時の断固としたちゅうちよない対応について気炎を吐く一方、最前線地域をうろついて軍事対応態勢を点検する茶番を演じた。

空軍参謀総長もやはり3日、「過去の痛ましい歴史を二度と繰り返してはならない」と述べ、戦闘機に乗って先の朝鮮戦争当時の洛東江戦線一帯の上空で指揮飛行する醜態を演じた。

われわれを狙った軍事力増強の動きもさらに本格化している。

軍部好戦狂は、「国防関連点検会議」なるものを開いて2020年から24年まで精密誘導兵器の確保と新たな戦闘機、ミサイルの開発、導入に莫大（ばくだい）な資金を投じることを決定したし、既に開始した高高度無人偵察機グローバルホークとステルス戦闘機F35Aの導入を引き続き強行すると公言した。

朝鮮東海上に弾道ミサイル迎撃ミサイル実験を行える水域を設定する一方、「北の各種ミサイルに備えた迎撃訓練」を頻繁に行うと力説するなど、露骨な対決姿勢を見せている。

一方、南朝鮮の陸軍、海軍、空軍は一斉に「冬季戦闘準備訓練」と「海上機動訓練」、警備飛行を展開して空と陸、海を戦争演習の場に行っている。

既に9日から朝鮮東海上では南朝鮮海軍第1艦隊所属の各種の艦艇と戦闘機が銃砲を撃ちまくり、海上機動訓練に狂奔している。

●朝鮮中央通信：金正恩委員長が新型肺炎で中国国家主席に書簡（2/1）

朝鮮国務委員会委員長である朝鮮労働党の金正恩委員長が、中国国家主席である中国共産党の習近平総書記に、中国で新型コロナウイルスによる肺炎の感染を防ぐ闘いが繰り広げられているのに関連して書簡を送った。

敬愛する最高指導者金正恩同志は書簡で、防疫の一線で奮闘している中国の全ての党員と医療従事者に温かいあいさつを送り、伝染病で肉親を失った家庭に深い慰問の意を表した。

敬愛する最高指導者金正恩同志は、わが党と人民は中国で発生した今回の伝染病発病の事態を自分のことのように思い、同じ家族、肉親が受けた被害と思っていると指摘し、兄弟の中国人民が経る痛みと試練を少しでも分かち合って助けたい心情を伝えた。

敬愛する最高指導者金正恩同志は書簡で、習近平総書記の賢明な指導の下に中国の党と政府、人民が伝染病との闘いで必ず勝利するものとの確信を表明するとともに、習近平総書記と中国共産党の全ての党員に力強いあいさつを伝え、中国人民の安寧と幸福を祈った。

朝鮮労働党中央委員会政治局の1月31日の決定に従い、朝鮮労働党中央委員会は中国共産党中央委員会に支援金を送った。

●朝鮮中央通信社論評：「日本の軍事大国化策動に警戒しなければならない」（2/11）

日本のスパイ衛星打ち上げは朝鮮侵略策動

地域の平和と安定をかく乱する日本の軍事的妄動が続いている。

去る9日、日本はわれわれの「ミサイル発射施設」など軍事施設に対する監視を強める目的の下に最新型スパイ衛星である「光学7号機」を宇宙空間に打ち上げた。

朝鮮半島と地域に生じた不安定な情勢の局面によって世界が憂慮を禁じ得ない時に、日本がわれわれを甚だしく刺激する軍事的挑発を行ったのは絶対に黙過できない行為である。

これは、明々白々な対朝鮮侵略策動であって、再侵略野望実現のための日本の軍国化策動がさらに本格化していることを如実に示している。

日本の反動層の再侵略野望の実現で最初の攻撃目標がほかならぬ朝鮮半島であることは周知の事実である。

島国の極右勢力は、20世紀に遂げられなかった「大東亜共栄圏」の昔の夢を実現する上で朝鮮半島を占領することを優先目標に定め、以前からその実現のための軍事的準備に拍車を掛けてきた。

そのような中でこんにち、日本の「自衛隊」は旧日本軍の軍種と兵種、指揮体系をそのまま生かした事実上の正規武力に、その攻撃能力が西側で米国に次ぐ水準に成長した。

特に、数十年を数える日本の宇宙の軍事化策動によって、人類共同の富である宇宙は戦犯国家の軍事的活動の舞台と化した。

1970年2月に最初の人工衛星を打ち上げてからこれまで、実に100余基に及ぶ衛星を打ち上げた日本は、対朝鮮情報収集用であると公然と騒いで稼働させている偵察衛星だけでも7基も保有している。

昨年5月14日、岩屋（毅）防衛相（当時）が記者会見で、わが共和国に対する監視強化のために政府の情報収集衛星のほかに別の商業衛星まで利用する重層的な体制を構築したと騒いだ事実は、日本の対朝鮮偵察行為が実際は途方もなく多くの衛星の動員の下でさらに悪辣（あくらつ）に行われていることを立証している。

これに、島国の政治家が新たに設けようとしている「宇宙作戦隊」も、宇宙空間でのより危険極まりない対朝鮮攻撃を予告していることにより、軍国主義へと突っ走る日本の危険性を増している。

問題は、島国が「北朝鮮脅威」説を騒いで極度に膨張させている「自衛隊」武力が単にわが共和国だけを目標にしていなくてあるところにある。

周辺諸国に向けて露骨に表している敵意と領土野望、全地球的範囲で活動を開始した「自衛隊」の動きなどは、島国の対朝鮮再侵略策動がいつでも全域へと拡大しかねないことを示している。

今回、日本の反動層が打ち上げたスパイ衛星もそれと同じである。

中国のある専門家は自国のメディアに寄稿した文で、日本がスパイ衛星の打ち上げをはじめとする軍事的策動にしがみついて常に朝鮮に言い掛かりをつけるのを絶対に真に受けてはならないと主張し、「多くの場合、それは『建前』であり、『軍事大国』の道へ進もうとする口実にすぎない。事実上、日本のスパイ衛星は朝鮮を監視する以外にその他の周辺諸国も重点監視対象にしている。これは言うまでもなく明白である」と強調した。

日本の武力増強騒動は対朝鮮侵略策動であり、「アジアの盟主」になるための地域覇権策動である。

平和と安全を願う人類の念願に挑戦した日本の軍事的妄動は当然、警戒されるべきである。

●朝鮮中央通信社論評：「侵略的正体を告発する明白な証拠」（2/12）

「領土・主権展示館」の改修・拡張を非難

日本の領土野望が極限に達した。先日、日本の反動層は独島（日本名・竹島）関連資料をはじめ自分らの領土野望を正当化する資料が保管された「領土・主権展示館」を他の地区にこれまでの7倍も広く拡張、改修する茶番を演じた。

展示館の開館後、沖縄北方担当相なる者は「展示では、歴史的な事実や法的な立場を明確にした上で、竹島は元々、日本の領土であるということを丁寧に説明している」と述べ、「不満のある国にはお越しいただいて十分に見ていただきたい」というご託まで並べた。

これは、日本の反動層の領土強奪ヒステリーが世界の糾弾と警告にもかかわらず、さらに執拗（しつよう）になり、強烈になっていることを実証している。

独島はわが民族の神聖な領土である。「三国史記」「高麗史」をはじめ古い文献史料はもちろん、日本の歴代の基本文献と著名な地図まで独島領有権がわが同胞にあることを立証している。このような厳然たる事実を強引に覆した展示館の「資料」と展示品が荒唐無稽で破廉恥な内容で一貫しているのは火を見るよりも明らかである。

「竹島区域」に展示したアシカの剥製がその代表的実例である。領土膨張主義者は、この剥製が1930年頃、独島周辺水域で生息していたアシカであると説明し、日本人が江戸時代初期の1600年代初めからその水域でアシカ漁を行ってきたという点から推測すると、独島は日本の領土であることが明らかであると言い張っている。

遠い昔から他人の領土に侵入して略奪行為と資源の強奪に明け暮れてきた資料まで自分らの下心を覆い隠すのに盗用しているのだから、その愚かさとずうずうしさに驚愕（きょうがく）を禁じ得ない。

領土問題を巡る各国との政治的・外交的摩擦と対立が紛争を生み、それが将来、戦争につながるというのは歴史が刻んだ教訓である。

今、日本の極右勢力は独島とその周辺海域に対する強盗さながらの「領有権」主張を通じて何としても軍事的衝突を起こし、それを奇貨として再侵略を開始しようとしている。

その侵略遂行の突撃隊を育てるために設けたのがまさに「領土・主権展示館」である。

日本の反動層の独島強奪野望は絶対に実現しない。

島国に建てられた「領土・主権展示館」は、この国の反動層の侵略的正体を全世界に告発する歴史の証拠として伝わるであろう。

●朝鮮労働党中央委員会の金與正第1副部長が談話（3/3）

「青瓦台の非論理的で低能な思考に『強い遺憾』を表明しなければならないのは我々」

火に驚けば火掻き棒だけを見ても驚くと言われた。

昨日行われた人民軍前線砲兵の火力戦闘訓練に対する南朝鮮の青瓦台の反応がそのようだ。われわれは、誰かを脅かすために訓練を行ったのではない。

国の防衛のために存在する軍隊にとって訓練は主な事業であり、自衛的行動だ。しかし、南の青瓦台から「強い遺憾」だの、「中断要求」だの、何のという言葉が聞こえてきたのは、われわれとしては実にげげんだ。

せん越なふざけた行為だと言わざるを得ない。けれども、青瓦台や国防部が自動応答器のように常に唱えていた言葉だ。

他人の家で訓練をしようと休息をとろうと自分らが何の関係があつてでまかせにしゃべるかということだ。

私は、南側も合同軍事演習をかなり好む方だと知っており、先端軍事装備の購入にも熱を上げるなど、無様なことは全部していると思っている。

こっそり搬入する先端戦闘機がいつかはわれわれを打つのに目的があるはずで、それで農薬をばら撒くために購入したのではなからう。

3月に強行しようとしていた合同軍事演習も、南朝鮮を席卷する新型コロナウイルスが延期させたもので、いわゆる平和や和解と協力に関心もない青瓦台の主人らの決心によるものではないということは、周知の事実である。

われわれが南側にそれほど行いたがる合同軍事演習を朝鮮半島の緊張緩和努力に役立たないとして中断することを求めるなら、青瓦台がどのように応答するか実に気になる。

戦争演習にそれほど熱中する人たちが他人の家で軍事訓練を行うことについてどうのこうのと言うのは、それこそ盗人猛々しいの極みである。

絞ってみれば、結局自分らは軍事的に準備されなければならない、われわれは軍事訓練をするなどということだが、この強盗さながらの無理押し主張をする人たちを誰が正常の相手としてもてなすだろうか。

青瓦台のこのような非論理的な主張と言動は、個別の誰かよりも南側全体に対するわれわれの不信と憎悪、軽蔑だけをいっそう増幅させるだけだ。

われわれは軍事訓練をすべきであり、お前たちはすべきではないという論理に帰着した青瓦台の非論理的で低能な思考に「強い遺憾」を表明しなければならないのはまさに、われわれだ。

この言葉に気分が非常に悪くなるだろうが、われわれが見るには実際に青瓦台の行動と態度が三歳の子どもと大きく変わらないように見える。

強盗さながらで無理押しをするのを好むのを見れば、ちょうど米国に似たまだ。同族より同盟をもっと重んじて寄生してきたのだから、似ていくのは当たり前のことだろう。

われわれと立ち向かうには無理押しではなく、もう少し勇敢で正々堂々と立ち向かうことができないのか。

本当に遺憾でがっかりするが、大統領の直接的な立場表明でないことをそれさえ幸いだと言うべきだろう。

いかにして、吐き出す一言一言、行動の一つ一つが全てそんなにも具体的で完璧に馬鹿げているのか。

実に、すまない比喻であるが、怖気づいた犬がもっと騒々しく吠えると言われた。

ぴったり誰かのようにな...